

## JLAC11の概要

### 1. JLAC11の目的

政府の次世代医療 ICT 構想や MID-NET などにおけるデータ統合と 2 次利用に活用可能な臨床検査項目コードとすること。

医療機関連携システムにおける共通インターフェースとしての利用を推奨する。

但し、医療関連施設の内部システムでの使用は特に推奨しない。

### 2. JLAC11 の要旨

- 1) JLAC10 と同様に測定物(5桁)識別(4桁)材料(3桁)測定法(3桁)結果(2桁)の 5 構成要素からなる 17 桁のコードから構成される。
- 2) JLAC11 で便宜的に使用する項目名称として“JLAC 検査名称”を設定する。  
採番時のガイドおよび検索時のキーワードとして使用する。
- 3) JLAC 検査名称は、測定物、識別、材料の 12 桁で表現される。
- 4) 測定物コードの先頭をアルファベットとし、JLAC10 と区別する。
- 5) 識別コードは、主に結果項目を表現する。分野ごとに固有の使用を可能とする。
- 6) 材料コードは、JLAC10 コードを基本とし、JANIS コードなどの一般的に臨床検査に関わる材料コードも参考にする。  
一般的な材料コードとしての使用も考慮し独立したコードとする。
- 7) 測定法コードは、JLAC 一般名称の固有コードとする。  
測定法コードの分類は、医師会および臨床検査技師会のサーベイなどを参考にする。
- 8) 結果コードは、結果単位をコード化する。依頼、判定、単位なしなどにも対応する。  
一般的な単位コードとしての使用も考慮し独立したコードとする。
- 9) 依頼と結果のコードを分けた設定を可能とする。  
JLAC コードを依頼コードと報告コードの 2 種類の概念に分け、前者では末尾の結果コードを常に 00 とする。
- 10) 機関独自の番号は一切用いない事とする。
- 11) 自動採番・検索ソフトウェアの開発を行う。各要素の名称など入力により、採番・検索が行えるソフトウェアを作成し、一般に公開する。

### 3. JLAC11 の構成



- 1) JLAC10 と変わらず 17 桁コードでの構成とする。
- 2) JLAC 検査名称を設置し 12 桁表示とする
- 3) JLAC 検査名称+測定法+結果単位の 3 ブロックとする。
- 4) 測定物コードの先頭をアルファベットとし JLAC10 と区別する。
- 4) 測定法コードは、JLAC 検査名称の固有コードとし、関連した測定法のみを選択とする。
- 5) JLAC10 結果識別(固有識別および共有識別)から、結果単位のコード化に変更する。

#### 4. JLAC11 の各要素について

- 4-1. JLAC 検査名称           \* 適用細則参照
- 4-2. 測定物コード           \* 適用細則参照
- 4-3. 識別コード             \* 適用細則参照
- 4-4. 材料コード             \* 適用細則参照
- 4-5. 測定法コード          \* 適用細則参照
- 4-6. 結果単位コード        \* 適用細則参照

#### 5. 採番・検索ソフトウェアの開発

- 1) 検査名称をキーワードとし、JLAC11 が容易に採番・検索できるソフトウェアを作成する。
- 2) JLAC 検査名称を検索し、それに関連した要素を選択することで採番をおこなう。
- 3) 検査名称の一部分の入力で JLAC 検査名称が検索可能な機能とする。
- 4) すべての要素の選択肢は名称で表示される。
- 5) メンテナンスなどの点から、web 環境での使用が望ましい。